

月刊 工連ニュース

OKINAWA
INDUSTRIAL FEDERATION NEWS



沖縄県産品マーク

毎年7月は「県産品奨励月間」・10月は「沖縄の産業まつり」です。

次世代へシフトさせる
イノベーション企業を目指す

- 第40回沖縄の産業まつり 第2回実行委員会
- 「元気カンパニー」フォーモーストブルーシール(株)
- 沖縄・台湾のものづくり連携記念シンポジウム
- 平成28年度 九経連「沖縄連携フォーラム」

2016
12月号

Vol.625

郷土の資源で郷土をつくる

琉球セメント

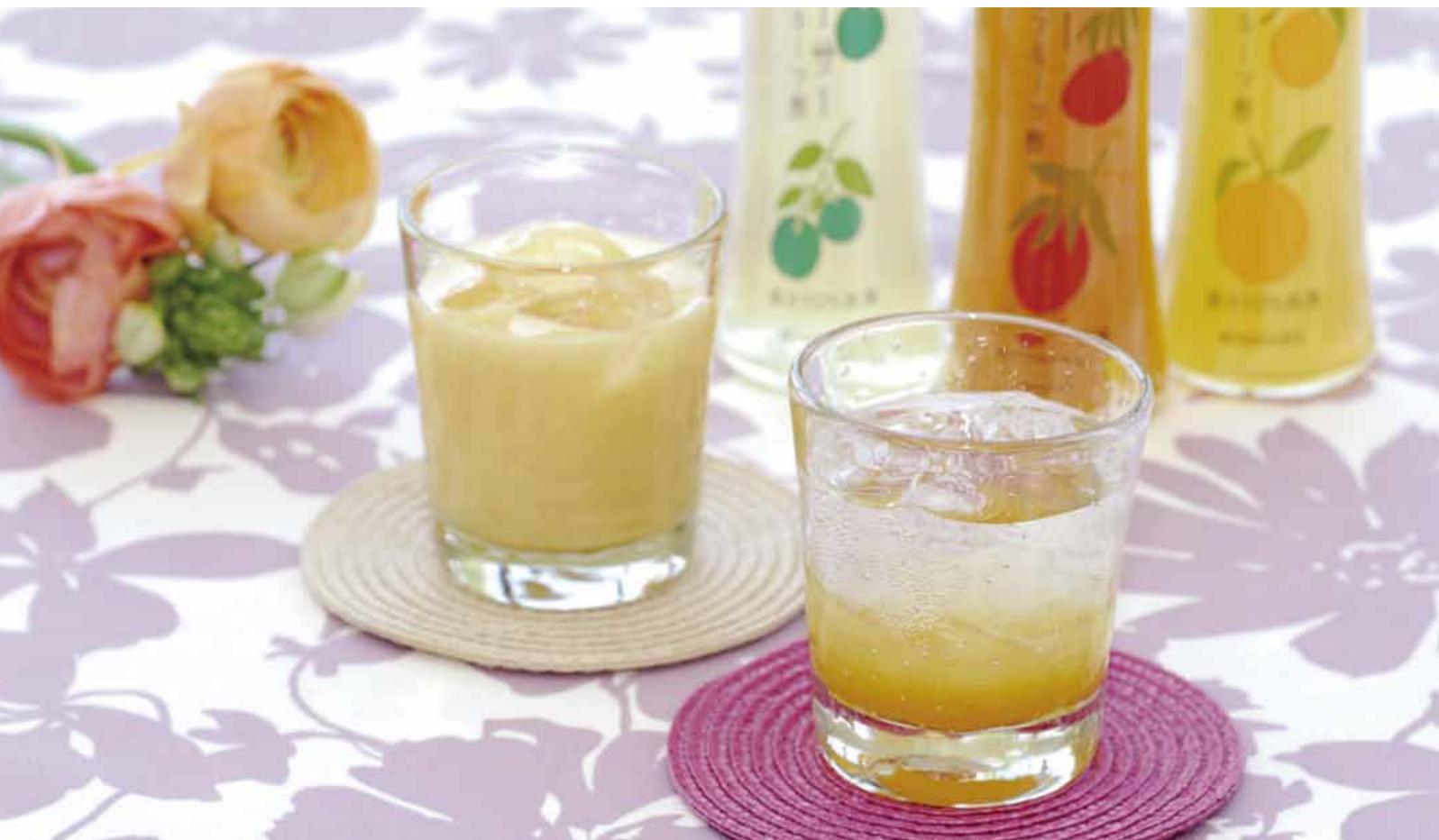
本社：沖縄県浦添市西洲2丁目2番地2

TEL 098-870-1080（代表）

工場：沖縄県名護市字安和1008番地

TEL 0980-53-8311（代表）

<http://www.ryukyuement.co.jp/>



株式会社 紅濱

〒901-2123 沖縄県浦添市西洲2丁目2番地2

 0120-55-1024

TEL 098-870-1150 FAX 098-870-1079

<http://www.benihamashop.jp/>

詳しくはホームページをご覧ください。

紅濱

検索



月刊 工連ニュース 12月号

OKINAWA INDUSTRIAL FEDERATION NEWS 2016 Vol.625

2p ▶▶ 第40回沖縄の産業まつり
第2回実行委員会

3p ▶▶ 平成28年度高校生美ら産フェア
第20回沖縄県産業教育フェア
沖縄県教育委員会

4・5p ▶▶ キラリ! 元気カンパニー「沖縄の未来を照らす企業」
アイスクリームを通じ
子供に夢を与える施設を
フォーモーストブルーシール株式会社



6・7p ▶▶ 沖縄・台湾ものづくり連携記念シンポジウム
(公社)沖縄県工業連合会

8・9p ▶▶ HACCP義務化に向けたHACCP入門セミナー
沖縄県食品産業協議会



10・11p ▶▶ 平成28年度
九経連「第9回沖縄連携フォーラム」

12p ▶▶ 琉球大学工学部後援会からのお知らせ
第6回世界のウチナーンチュ大会で
国際環境エネルギーシンポジウムを開催

13p ▶▶ 沖縄高専だより
第2回沖縄海洋ロボットコンペティションに
参加しました

14p ▶▶ 沖縄職業能力開発大学校
沖縄職業能力開発大学校の事業主推薦
制度・一般入校試験情報について

15p ▶▶ 工業技術センターだより
車椅子の移動を“らく〜”に(^^)/
— 介助支援型スローパーの開発 —

16p ▶▶ トピックス
沖縄県衣類縫製品工業組合からの
要請内容
沖縄県商工労働部からの要請内容
会員募集のご案内
会員の皆様へ

2016年11月 工連日誌

- | | |
|--|--|
| 2日(水) 11月定例執行部会
●時間/12:00~13:30 ●場所/沖縄都ホテル | 25日(金) 工連青年部会 忘年会
●時間/8:30~21:00 ●場所/ダブルツリーbyヒルトン那覇首里城 |
| 18日(金) 沖縄県食品産業協議会 HACCP義務化に向けたHACCP入門セミナー
●時間/13:30~16:30 ●場所/沖縄県工業技術センター | 28日(月) 第40回沖縄の産業まつり 第2回実行委員会
●時間/14:00~15:00 ●場所/ホテルロイヤルオリオン |
| 25日(金) 沖縄・台湾ものづくり連携記念シンポジウム
●時間/15:00~20:00 ●場所/ロワジールホテル&スパタワー那覇 | 30日(水) 平成28年度「新入社員研修セミナー・フォローアップ」
●時間/9:30~15:30 ●場所/沖縄産業支援センター |

特許等取得活用
支援事業

知財総合支援窓口

中小企業など知的財産の有効活用をアドバイスします。

ワンストップサービス 秘密厳守 相談無料 個別対応のため予約が必要です

- 知財専門家が窓口へ常駐
- 知財専門家を派遣
- 知財ニーズの発掘
- 知財に関する支援策の紹介
- インターネット出願を支援

全国共通お問い合わせ先



0570-082100 (有料)

098-995-8778

内閣府沖縄総合事務局委託事業/
実施:一般社団法人沖縄県発明協会

※ご相談頂いた内容は守秘義務により保護されます。
※詳しい日時に関してはお問い合わせください。

- ◎ うるま窓口(うるま市)毎週 月~金(祝祭日を除く)/8:30~17:15
- ◎ 那覇窓口(那覇市)毎週 火・水(祝祭日を除く)/9:00~17:00
- ◎ 外部窓口(名護)毎月第4火曜日/9:00~17:00
- ◎ 外部窓口(八重山)偶数月・第4金曜日/10:00~17:00
- ◎ 外部窓口(宮古)奇数月・第4金曜日/10:00~17:00

公益社団法人沖縄県工業連合会は「沖縄の産業まつり」や「県産品奨励月間」などの活動を通して、沖縄経済の自立化を目指しています。

●工連ニュースへのご意見ご要望をお待ちしております。Eメールでもご参加ください。

E-mail/info@okikouren.or.jp ホームページ/http://www.okikouren.or.jp

発行所/公益社団法人 沖縄県工業連合会

那覇市字小嶺1831-1沖縄産業支援センター6F

電話(098)859-6191 FAX(098)859-6193

編集・印刷/有限会社サン印刷 電話(098)889-3679

第40回 沖縄の産業まつり 第2回実行委員会

第40回沖縄の産業まつりが10月21日から3日間の日程で、那覇市の奥武山公園、県立武道館で開催されました。ホテルロイヤルオリオンにて行われた第2回実行委員会では、呉屋守章会長を中心とした実行委員が顔を揃え、産業まつりについて、実施内容の報告と次年度に向けての課題について話し合いました。

40回目の節目の開催となった今年は、過去最高となる552社が出展。来場者数も242,500人と昨年の記録230,100人を大きく上回るなど、例年以上の盛り上がりを見せました。

40回記念事業として開催された産業特別展では、現在研究が進められている熱水鉱床や海洋生物、海洋エネルギーに関する展示から沖縄の観光産業を支えるダイビング、マリンスポーツの案内まで、幅広い視点から研究結果や事例を紹介。県内のみならず、国立の研究機関の協力を得ることで、貴重な展示物や体験を実施することができました。

また、昨年も好評だった沖縄高専卒業生が起業したスケルトニクスによる最新型歩行ロボットの展示・デモンストラーション・試乗体験は今年も家族連れを中心に人気を博しました。今年とはとくに小中学生の来場が多く見られ、次代を担う子供たちにとって、先輩である高専卒業生の活躍は大きな刺激になったことと思われます。その他、県内各地の特産品が集められた商工会特産品フェア「ありんくりん市」や県産品展示即売会、オリオンピアガーデンなど、子供から大人まで楽しめる内容となりました。

開催中は3日間とも晴天に恵まれ、40回の記念すべき年にふさわしい盛況ぶりでした。呉屋会長は、40回目の産業まつりの実績を委員会でも報告しながら、「産業まつりが現在のように沖縄県の産業発展に大きく影響し、県民の支持を得、企業にとつてもよい宣伝マーケティングの場となっているのも、数多くの先輩方の努力と工夫の賜物。これからも県内産業の魅力を広く伝えていきたい」と、次年度の41回に向け、早くも意気込みを見せていました。



沖縄の産業まつり実行委員会 会長
呉屋 守章氏
(公社)沖縄県工業連合会会長

沖縄県商工労働部産業雇用統括監
新垣 秀彦氏

高校生美ら産フェア

第20回 沖縄県産業教育フェア

●日時:平成28年11月13日(金)・14日(土) ●会場:県立武道館、沖縄国際ユースホテル、那覇港



沖縄県副知事
安慶田 光男氏



那覇市長
城間 幹子氏



沖縄県教育委員会教育長
平敷 昭人氏



沖縄県産業教育振興会副会長
島袋 清人氏

【県立武道館アリーナ棟 特別ステージ】

- 専門高校生国外研修事業報告
- 高校生研究発表
- 手話ソング
- ファッションショー
- 珠模・ビジネス映像ショー



【県立武道館アリーナ棟 館内】

- 作品展示、体験および学校紹介コーナー

【県立武道館アリーナ棟 特設フロア】

- ロボット模擬競技

【野外特設会場】

- 食品バザー
- 体験コーナー
- 実習作品即売



【錬成道場 1F・2F 他】

- 商業パート
- キッズビジネススタウンin高校生美ら産フェア

【那覇港(那覇ふ頭)】

- 水産高校実習船「海邦丸五世」一般公開
- 水産高校小型実習艇「翔洋」港内クルーズ

【沖縄国際ユースホテル大研修室】

- 「高校生の進路を考える」フォーラム



県立武道館アリーナ棟を中心に、高校生による多彩な催しが行われました。



●手話ソング



●ロボット模擬競技



●商業パート ●食品バザー ●体験コーナー ●実習作品即売



●キッズビジネススタウン
in高校生美ら産フェア



●水産高校実習船「海邦丸五世」
一般公開



●水産高校小型実習艇「翔洋」
港内クルーズ



●「高校生の進路を考える」
フォーラム

高校生美ら産フェア(第20回沖縄県産業教育フェア)が沖縄県立武道館をメイン会場に開催されました。沖縄県の専門高校の生徒が日頃学習した成果を発表、産業教育について広く理解を深める場として毎年行われているものであり、今年で20回目の節目を迎えます。

主催を代表して開会式で挨拶した平敷昭人教育長は、参加した学生たちに向け、「沖縄県の産業発展には次代を担う若者の活躍が必要不可欠。日ごろ学んだ技術や知識を思う存分発揮してもらいたい」と激励の言葉を送りました。

今年もスローガンとポスターデザインが県内各校の生徒を対象に募集され、八重山農林高校ライフスキル科2年大城美夕さんの「未来を変える我らの技術 あふれる思いを次世代へ」がスローガンに選ばれました。ポスターの部では、最優秀作品として、美来工科高校コンピュータデザイン科2年喜納恵里香さんの作品が選ばれています。開会式とともに表彰式も行われ、各部門の入賞者に賞状と記念品が贈呈されました。

2日間の開催期間中は、生徒たちが制作した作品の展示や日ごろの授業の内容を紹介するパネル展示、生徒たちが収穫、開発した農作物や加工品の販売等が行われました。メイン会場である県立武道館の特設ステージでは、専門高校生による国外研修事業報告、中部農林高等学校、未来工科高等学校による研究発表が行われました。珠算・ビジネス映像ショーでは、県内商業高校珠算部による珠算演技やフラッシュ暗算が公開され、その正確さと計算の速度に会場から驚きの声が上がっていました。また、人気イベントのひとつである高校生ファッションショーでは、「宇宙・冒険」をコンセプトに据え、ファッション科の生徒たちが宇宙や星をモチーフにした幻想的なショーを披露しました。さらに今年度は手話ソングがメインステージにて行われ、平和や友情のメッセージをこめた手話ソングが感動を呼びました。

特設フロアでは、ロボット競技デモンストラーションとロボット操作体験会が行われました。工

業高校の生徒が制作したロボット相撲が激しくぶつかりあう様子や、アイデアロボットを操作する生徒の繊細な動きに、大人も子供も目を引かれていました。「ロボット操作体験」では、高校生指導のもと、子供たちが実際にロボットを操作し、貴重な体験に目を輝かせていました。

他にも、子供を対象としたキッズビジネススタウンが錬成道場2階で行われました。テレビ局のアナウンサーやパイロット等の様々な職業を体験し、報酬としてお菓子をもらうシステムで、毎年多くの子供たちが憧れの仕事に挑戦しています。テレビカメラの前でニュースを読んだり、フライトシミュレータを操作したりといった本格的な内容に、子供たちは緊張しながらも大いに好奇心を刺激されたようで、2日間とも多くの子供たちが集まり、大盛況となりました。

錬成道場の1階では商業パートが行われ、那覇商業、中部商業、浦添商業、南部商業、八重山商工、宮古総実の6校が出店。地元企業とコラボして制作したオリジナルスイーツや地域の特産品を販売しました。パン、スイーツの販売を手がけた商業高校の生徒は、「声を張り上げて一生懸命販売した。準備は大変だったけれど、友達との絆も強くなり、商品も無事売れさせることができて、充実した時間を過ごせたと笑顔を見せていました。

那覇ふ頭では、「水産実習船一般公開および小型実習艇翔洋港内クルーズ」が行われ、大型実習船「海邦丸五世」が一般公開されるとあって、こちらの会場にも多くの人が足を運びました。ふだんは見ることができない操舵室やエンジンルームを観察することができる貴重な場となりました。船の特徴や仕組みについて解説することで、専攻科漁業科・機関科の生徒たちにとっても、日ごろの活動の成果を発揮できるよい機会となったようです。

2日間とも快晴に恵まれ、20年目の節目にふさわしい盛況ぶりで、生徒たちにとっても来場者にとっても楽しく刺激的な時間となりました。



「体験ゾーン」では、形、フレーバー、チョコソースを選び、自由にお絵かきもでき、さらに13種類の中からトッピングも選べ、デコレーションが楽しめるという、本格的な「オリジナルアイスパーづくり体験」ができ、なかなか普段見れない製造の様子も見学できると人気。



キラリ! 元気 カンパニー

沖縄の未来を
照らす企業

アイスクリームを通じ 子供に夢を与える施設を

フォーモーストブルーシール株式会社

体験型ミュージアム

「ブルーシールアイスパーク」がオープン

フォーモーストブルーシール株式会社が今年9月、牧港本店隣に体験型ミュージアム「ブルーシールアイスパーク」をオープンしました。

ブルーシール初のテーマパークとなる施設内では1948年の創業当時の写真や歴代の商品サンプルが展示されたミュージアム見学のほか、「アイスクリームの保管温度であるマイナス20度の冷凍庫体験」が可能です。好きなフレーバーのアイスを選び、好みのトッピングでデコレーションする「オリジナルアイスパー作り」は、週末には予約でいっぱいになるほどの人気となっています。

ブルーシールにしかできない、心からわくわくできる体験を届けたい」という代表取締役水田正明氏のアイデアをもとに、フォーモーストブルーシール株式会社の新事業としてスタート。専門部署が設置され、ミュージアムに展示するための資料収集や体験コーナーのメニュー作りといった作業が進められました。

ブルーシールは基地内で米国軍人に提供される乳製品製造会社として沖縄県で誕生し、今年で創業68年という長い歴史を持っています。それだけに資料の数も膨大であり、展示品を選ぶだけでも多くの試行錯誤があったといえます。担当者として

作業にあたったマーケティング部小渡亜梨紗さんは、「ベテラン社員も知らなかった事実や懐かしい商品パッケージとの出会いがあり、ブルーシールという場所や商品をあらためて好きになれる良いきっかけになった」と話します。パッケージサンプルは年代順に陳列され、親子三世代に渡って、それぞれの子供時代に馴染みのあるパッケージを見ながら会話ができるように工夫されています。

内装にもこだわり、カラフルなディスプレイやアイスクリームを模った椅子など、非日常を体感できる空間になっています。女性社員4人を中心としたチームが制作に携わり、女性ならではの繊細なアイデアが詰められているのが特徴です。

オープン以降、家族連れをはじめとした多くの来客で賑わっており、県内在住のアメリカ人や海外からの観光客も増えているといえます。リゾート目的で沖縄を訪れる観光客にとって、悪天候でマリンスポーツなどの予定がキャンセルになった場合の代替施設が少ないことが沖縄の観光における難点といわれており、アイスパークの誕生は県の観光産業にとっても大きなニュースといえます。

リピーターの数も多く、人気の高い「オリジナルアイスパー作り」は2〜3週間先まで予約で埋まることもあり、より多くの皆様にご利用頂きたいという想いから、営業時間の拡大および夜の部も体験できるようにしました。（※詳しくは「ブルーシ



マネージャーの玉城美香さん



「コミュニティスペース」では、ガラス越しに体験の様子も見学可能です。また、隣の店舗で買ったアイスと一緒に、お客様同士のコミュニティの場としてもご利用頂けます。(写真左)



「オリジナルグッズ」も数多くあり、お土産にも最適と好評です。(写真右)



「ヒストリーゾーン」では、創業から現在までの歩みを、貴重な歴史資料をもってブルーシールと沖縄との関わりをも紹介するミュージアムスペースです。準備には数百点ある未公開資料からの展示選定や創業当時のOBらへの取材も行い、様々な古写真や沖縄の暮らしに密着した懐かしい情報を発信しています。

ブルーシールではこれまでも「紅芋やシークワーサー、塩ちんすこう」といった沖縄産食材を使用したオリジナルフレーバーを開発・販売しており、県内企業と協力体制を組むことによって生まれた琉球ロイ

ールアイスパーク」で検索）
アイスバー作り体験を担当するマネージャーの玉城美香さんは、「デコペンを作った好きな字や絵を描いたり、チョコチップやクッキーでデコレーションしたりといった体験は家庭ではなかなかできないこと。子供だけでなく大人でも夢中になれる」と話します。完成した手作りアイスバーは専用の保冷バッグに入れて持ち帰ることができ、ギフトとしても喜ばれています。

「100年企業」目指し
さらなる進化図る

施設内にはミプラントも設置されており、アイスクリームの製造過程をガラス越しに見学することができます。水田氏は社全体のポリシーとして「地元を愛され100年続く企業を目指すためには、わたしたちの仕事について、商品について、より多くの人に知ってもらう必要がある」とし、仕事の内容を公開することで、地域の人々との結びつきを強めようという目的がこめられています。さらに、ミプラントによる小ロットの商品製造を可能にすることで、これまでは難しいとされていた商品開発にも力を入れています。

「100年企業」目指し
さらなる進化図る

施設内にはミプラントも設置されており、アイスクリームの製造過程をガラス越しに見学することができます。水田氏は社全体のポリシーとして「地元を愛され100年続く企業を目指すためには、わたしたちの仕事について、商品について、より多くの人に知ってもらう必要がある」とし、仕事の内容を公開することで、地域の人々との結びつきを強めようという目的がこめられています。さらに、ミプラントによる小ロットの商品製造を可能にすることで、これまでは難しいとされていた商品開発にも力を入れています。

Corporate Profile

フォーモスト ブルーシール株式会社

- 業種
アイスクリームの販売、アイスクリーム関連商品の販売、冷菓と乳製品の販売、アイスクリームパラーの経営、飲食店経営
- 設立 1963年2月9日
- 代表者 代表取締役 水田正明
- 住所・連絡先
浦添市牧港5丁目5番6号
TEL 098-877-5103(代表)・FAX 098-876-6499
- オフィシャルサイト
<http://www.blueseal.co.jp>
- アイスパークオフィシャルサイト
<http://icepark.blueseal.co.jp>

「100年企業」目指し
さらなる進化図る

施設内にはミプラントも設置されており、アイスクリームの製造過程をガラス越しに見学することができます。水田氏は社全体のポリシーとして「地元を愛され100年続く企業を目指すためには、わたしたちの仕事について、商品について、より多くの人に知ってもらう必要がある」とし、仕事の内容を公開することで、地域の人々との結びつきを強めようという目的がこめられています。さらに、ミプラントによる小ロットの商品製造を可能にすることで、これまでは難しいとされていた商品開発にも力を入れています。

「100年企業」目指し
さらなる進化図る

施設内にはミプラントも設置されており、アイスクリームの製造過程をガラス越しに見学することができます。水田氏は社全体のポリシーとして「地元を愛され100年続く企業を目指すためには、わたしたちの仕事について、商品について、より多くの人に知ってもらう必要がある」とし、仕事の内容を公開することで、地域の人々との結びつきを強めようという目的がこめられています。さらに、ミプラントによる小ロットの商品製造を可能にすることで、これまでは難しいとされていた商品開発にも力を入れています。

沖縄・台湾ものづくり連携記念シンポジウム

主催：（公社）沖縄県工業連合会、（一財）南西地域産業活性化センター
 台日商務交流協進会、（財）台湾経済研究院

●日時：平成28年11月25日（金） ●会場：ロワジールホテル&スパタワー那覇



今年6月17日台湾台北市においてものづくり連携に関する協力協定（MOU）が沖縄県工業連合会、南西地域産業活性化センター、台日商务交流協進会および台湾経済研究院間で締結されました。この協定を記念して、沖縄県那覇市において「沖縄・台湾ものづくり連携記念シンポジウム」が開催され、各団体・関係企業等から多くの参加者が足を運びました。

シンポジウムでは、沖縄・台湾双方から専門家が講師として招かれました。沖縄からは県政策参与富川盛武氏、台湾からは台日商务交流協進会顧問鄭世松氏が、それぞれの視点から、アジア経済戦略構想において双方が果たす役割、沖縄と台湾のものづくり連携への期待等について講演しました。

富川氏は、沖縄県アジア経済戦略構想を軸とした県の取り組みを紹介。那覇空港の滑走路増設、鉄軌道等のハードインフラ、沖縄ビジネス・コンシエルジエ等ソフトウェアの整備、さらに国家戦略特区等の規制緩和推進を通



(公社)沖縄県工業連合会会長
吳屋守章氏



沖縄県商工労働部産業雇用統括監
新垣秀彦氏



内閣府沖縄総合事務局長
能登靖氏



【基調講演】
台日商務交流協進会顧問
鄭世松氏



【基調講演】
沖縄県政策参与
富川盛武氏



懇親会での和やかな雰囲気

台日商務交流協進会副理事長 董 炯 熙氏
南西地域産業活性化センター会長 伊志嶺伝一郎氏
内閣府沖縄総合事務局経済産業部長 寺 家 克 昌氏
台北駐日経済文化代表処那覇分処長 蘇 哲 誠氏



じて商流を生み出し、アジア規模のビジネスへと展開する必要があるとして、「台湾からは観光客が多く訪れるだけでなく、製造業や観光業の沖縄投資が活発であり、経済連携が進展していく中、台湾は沖縄経済のアジア展開において重要な役割を担うといえる」と、力強く語りました。

台湾側の鄭氏は、歴史や気候など沖縄と台湾には類似した点が多数あることを根拠に、互いによりビジネスパートナーとなれると力説。「台湾の技術を用いて日本で生産し、「メイド・イン・ジャパン」の商品として展開することも可能。安く、早く、大量に作るという戦略ではなく、新しい価値の創造に努めることで道が開けると話しました。

主催団体を代表してあいさつした工業連合会呉屋会長は、「株式会社トリム、株式会社オリオンビール、オキコ株式会社など多くの会社が台湾に進出しており、グローバル企業を目指して進みはじめています。台湾はアジアにおける販売ルートを持つていることもあり、台湾との連携に関してはより積極的」として、台湾の持つ販売ルートや経験、情報を沖縄県の企業にも応用できるはず」と語りました。

シンポジウム終了後には関係者同士が親睦を深め会ったための懇親会も開かれ、リラックスした雰囲気の中、よい情報提供・意見交換の場となりました。



HACCP義務化に向けた HACCP入門セミナー

●日時:平成28年11月18日(金) ●会場:沖縄県工業技術センター

食の安全が重視される中、厚生労働省は、食品衛生管理の国際基準であるHACCP(ハザップ)の導入を食品関連事業者に義務付ける法案を進めており、2018年の通常国会において食品衛生法など関連法の改正案が提出される予定になっています。

アベノミクス「3本の矢」の日本復興戦略の中の「食文化・食産業のグローバル展開に向けた輸出の促進を進めるための方策のひとつとして打ち出されたものであり、さらには2020年の東京オリンピック開催も影響して、食品関連企業に対するHACCP導入の流れができています。

近い将来義務化されることが予想されるHACCPについて理解を深め、新たなルールに対応するため、沖縄県食品産業協議会主催によるHACCP入門セミナーがうるま市の沖縄県工業技術センターで行われました。

HACCPとは「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略であり、食品を製造・加工する段階で発生するおそれのある微生物汚染等の危

害をあらかじめ分析、その結果に基づいて、製造工程のどの段階でどのような対策を講じればより安全な製品を得ることができるかという重要管理点を定め、これを連続的に監視することにより製品の安全を確保する衛生管理の手法です。国連食糧農業機関(FAO)と世界保健機構(WHO)の合同機関であるコーデックス委員会から示され、国際的に認定されたものとして、各国に採用を推奨されています。

セミナーの講師を務めた株式会社目加田経営事務所部長でチーフコンサルタントの根橋弘行氏は、目前に迫るHACCP義務化に向けた取り組みが必要不可欠であるとし、HACCPの基本構造や従来の品質管理、衛生管理との違い、HACCP導入のメリットについて解説。時代の流れに応じた食品衛生管理強化を促しました。

主催である食品産業協議会や沖縄県工業連合会等の加盟企業を中心に、食品に関わる多くの参加者が訪れ、その多くが、間近に迫る法改正を見据えた迅速な対応の必要性を感じたようでした。



【ご挨拶】
沖縄県食品産業協議会
会長 竹内一郎氏



【講師】
(株)目加田経営事務所
部長チーフコンサルタント 根橋弘行氏

セミナーでは、実際にHACCPの様式例に沿った製品説明書の作成も行われました。根橋氏は、HACCPチームの編成を推奨し、「新しいルールとはいえ、基本的な考え方は既存の5S(整理、整頓、清掃、清潔、習慣の頭文字を取ったもの)がもつとも重要であり、社員全員が常に食品の製造環境と清掃機械、器具を清潔に保つ意識を持つことにより、食の安全が守られる」と、いっそうの意識向上を呼びかけました。



食品製造における「HACCP導入の手引き」

MHLWchannel

チャンネル登録 6,300

視聴回数 21,706 回

youtubeにて、食品製造における「HACCP導入の手引き」を配信中です。

右記のQRコードからアクセスするか、youtubeを開き、食品製造における「HACCP導入の手引き」で検索ください。



また、食品産業協議会竹内一郎会長(沖縄製粉株式会社代表取締役社長)も主催者を代表して挨拶し、「この大きな転換をチャンスにとらえ、会社の方としていくべき」とし、県内の食品関連企業・団体が一丸となってHACCPの義務化に備え、積極的に導入していくことの重要性を訴えました。



今回のテーマは「農水産物・食品のブランド化と販路拡大」となっており、シンポジウムには県内外からも多くの参加がありました。

平成28年度

九州経済連合会「第9回沖縄連携フォーラム」

●日時：平成28年11月15日（火） ●会場：ロワジールホテル那覇

一般社団法人九州経済連合会と沖縄

県経済団体会議との共催による第9回
沖縄連携フォーラムが那覇市のロワジ
ールホテル那覇にて開催されました。
九州・沖縄両地域の経済人の交流・親睦
と相互理解を図ることを目的に平成20
年より開催しているものであり、今回
で9回目の開催となります。

今回のテーマは「農水産物・食品の
ブランド化と販路拡大」となっており、
シンポジウムには県内外から多くの
来場者が詰めかけました。農業・農
産品の商品化、ブランド化、販路拡大
に大きな実績を持つパネリストが招
かれ、九州・沖縄における第一次産業
発展に向け、議論を深めました。



パネリストは、

九州農水産物直販株式会社
代表取締役社長 羽田正治氏

株式会社ファーム・アライアンス・マネジメント
代表取締役 松本武氏

株式会社リウボウホールディングス
代表取締役 糸数剛一氏

コープおきなわ
まち・心・ものづくりサポーター 石原修氏
の4名が務めました。

沖縄国際大学名誉教授、沖縄県政策
参与の富川盛武氏がモデレーターと
して論点提起し、パネルディスカッ
ションという形式で行われたシンポジウ
ムでは、それぞれが自身の専門分野の
知識や実際の体験をもとに見解を述
べ、激しい意見交換が行われました。

九州経済連合会では、第一次産業振
興、生産者の取得向上のため、大都市
圏での商談会やアジア市場に向けての
輸出促進に取り組んでいるところであ
り、また沖縄県においても、産業成長戦
略のひとつとして、県産品の販路拡大、





各分野に精通するパネリストへ会場からさまざまな課題に対しての質問があり、具体的なアドバイスがなされました。



沖縄国際大学名誉教授 沖縄県政策参与 富川盛武氏

高付加価値化による沖縄ブランド確立に力を入れています。そういった観点から、豊富な経験と広い視野を持つ4名のパネリストが、今後九州・沖縄が取り組むべき課題や、流通、販売に関する海外での成功例、日本との違いといった様々な意見を述べました。

参加者の中には農業関係者や生産者の姿も多く、様々な課題を抱える農家の苦労や今後の展開について、パネリストにアドバイスを求める場面も見られました。

シンポジウム終了後は同会場にて懇親会も開かれ、主催者、パネリスト



沖縄県経済団体会議 議長 石嶺伝一郎氏



九州経済連合会 会長 麻生泰氏

を中心により砕けた雰囲気の中で親睦を深めました。主催者である九州経済連合会会長麻生泰氏、沖縄県経済団体会議議長石嶺伝一郎氏は、互いの情報を交換しながら、今後も両団体が連携を強め、九州・沖縄の経済・産業発展に結び付ける意思を確認していました。

シンポジウム、懇親会ともに参加した食品関連会社勤務の参加者は、「様々な分野のプロフェッショナルが揃い、実務的な話を聞くことができよかった」と話し、多くの参加者にとって有意義な時間となったようでした。



懇親会



琉球大学工学部後援会からのお知らせ

第6回世界のウチナンチュ大会で 国際環境エネルギーシンポジウムを開催

琉球大学工学部環境建設工学科 堤純一郎



2016年10月下旬に第6回世界のウチナンチュ大会が行われました。琉球大学工学部としてはたぶん初めての
ことと思いますが、この大会に関わる標記のような連携イベントを開催しましたので、それについて報告します。

イベントの正式名称は「世界のウチナンチュの目から見た国際環境エネルギーシンポジウム」で、内容は主として世界のウチナンチュ大会に参加する帰国ウチナンチュの中で、特に環境やエネルギー関連のエキスパートに
集まっただき、シンポジウムを開催するというものです。目的は、世界に広がるウチナンチュのネットワーク
を使って、地球環境やエネルギー関連の問題に対して、専門人材の育成も含めて立ち向かうことです。実際のシン
ポジウムの準備とその主催は、そのための実行委員会を琉球大学工学部と沖縄エネテックの二者で組織しまし
た。委員長には元工学部長の宮城隼夫琉球大学名誉教授、副委員長は沖縄エネテックの玉城素直社長です。琉球
大学からは私、玉城史朗教授、浦崎直光教授、仲松亮助教のほか、ボブ・ナカソネ名誉博士、ダニエル・チネン非常
勤講師にも参加していただきました。

浦添市の産業振興センター「結の街」で、2016年10月28日(金)午後2時から5時半まで開催したシンポジウムで
は、宮城委員長による開会の辞で始まり、来賓のディヴィッド・イゲ・ハワイ州知事、翁長雄志沖縄県知事からご祝
辞をいただきました。玉城教授、ハワイ州政府のルイス・サラベリア氏、米国フェルミ国立加速器研究所の葉恭平
博士による基調講演に続き、ブラジルのエデュアルド・イオシモト・サンパウロ大学教授、ハワイのジェイ・イグナシ
オ・ハワイ電光社長、沖縄からは島袋清人沖縄電力副社長、ペルーの我那覇宗孝ペルー応用化学大学教授、フィリ
ピンのクリスティーナ・ウマリ社会福祉開発省担当官の各地域の現況説明があり、最後にこの5名をパネリストと
して、私がモデレータを務めて、パネル・ディスカッションを行いました。最後に玉城副委員長による閉会の辞で締
めました。

多くの皆様のご支援によりほぼ予定した来客者数を集め、青池牧恵氏による司会の手際も良く予定通りの進
行ができ、多少の不手際もありましたが、無事にすべての計画を完了することができました。蛇足ですが、その後
に行った懇親会では、ハワイ州の3名の議員も加えて、さらに盛り上がりました。



イゲ・ハワイ州知事による祝辞



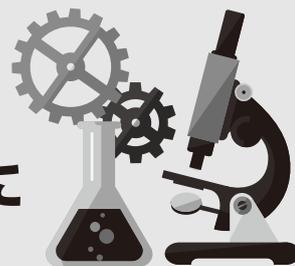
翁長沖縄県知事による祝辞

琉球大学工学部後援会事務局

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1番地 TEL:098-895-8719 FAX:098-988-4614

沖縄高専だより Okinawa National College of Technology

第2回 沖縄海洋ロボットコンペティションに 参加しました



沖縄高専では、11月19日(土)、20(日)に、波の上みそら公園(那覇市)において、海中で動くロボットの研究・教育等の活性化を目指し開催された「第2回沖縄海洋ロボットコンペティション(以下、海洋ロボコン)」に参加しました。

競技は、ROV部門、AUV部門、フリースタイルの3部門にて行われ、出場者によるプレゼンテーションや実機デモによる技術力が競われました。

当日は天候や穏やかな波にも恵まれ、出場者が各々の課題をクリアしゴールを目指して潜行する中、本校

は、ROV部門に出場し、琉球大学を相手に白熱した戦いを繰り広げました。結果は、競技途中の機械トラブルにより予選敗退となりましたが、競技中に観客を湧かせたとして審査員特別賞をいただきました。

プレ大会から数えて3回目となる今年の海洋ロボコンは、出場者のロボット性能も更に向上しており、海洋ロボットの可能性に期待される声があがるなど、大盛況に終わりました。

※ROV:遠隔操作型の無人潜水機、AUV:自律型の無人潜水機



最終調整中の沖縄高専
海洋ロボット



操作する学生に指示を送る
沖縄高専の学生



スタート直前の沖縄高専
海洋ロボット



審査員特別賞授賞式の様子

沖縄工業高等専門学校産学連携協力会事務局 (担当:喜屋武)

〒905-2192 名護市字辺野古905番地 TEL:0980-50-0133・FAX:0980-55-4012

E-mail:sangaku@m1.cosmos.ne.jp ホームページ: <http://www.cosmos.ne.jp/~sangaku/>





沖縄職業能力開発大学校の 事業主推薦制度・一般入校試験情報について

★事業主推薦制度(応用課程)のご案内★

～技能・技術を継承できる人材、リーダーとなれる人材を育成しませんか?～

当校では実務経験その他により、当校の専門課程卒業と同等以上の技能及びこれに関する知識を有すると認められる方を対象として、**事業主の方からの推薦により応用課程へ入校できる「事業主推薦制度」**を設けています。

(例：生産現場で3年間勤務された方、工学系の大学を卒業された方等)

【応用課程の特長】

- 製品の企画開発から制作まで、一連のものづくりの課題実習
 - 各人がグループの中で専門性を発揮し共通の課題に取り組むワーキンググループ方式
- このシステムにより人間力を向上させ、産業界で必要とされる**生産現場のリーダーとして素質を持った人材を育成**します。また、応用課程の課題実習では、企業との共同研究も数多く行っております。
ご興味のある方は、当校学務課（098-934-4808）までお気軽にお問い合わせください。



★2017年度専門課程一般入校試験 募集案内★

当校は厚生労働省が所管する国立の学校です。専門課程では、高卒者等に対して、高度な技能・技術を兼ね備えた実践技術者（テクニシャン・エンジニア）の育成を目指します。

【各科紹介】

科名	定員	教育訓練内容
生産技術科	20	機械設計、機械加工、組立・制御技術
電子情報技術科	25	組込み技術に必要な電子回路の設計製作、プログラミング等
電気エネルギー制御科	25	電気エネルギー制御技術、自動化技術、省エネ化技術
住居環境科	20	建築計画、構造計算、居住システム・建築設計、施工管理
物流情報科	20	輸送・配送・荷役などの物流管理、貿易、販売管理、情報処理等
ホテルビジネス科	20	観光・企画・営業技術やホテルスタッフの技術

※ 網掛けされている4科については、生産現場のリーダーを育成する応用課程への進学が可能です。

【出願資格】 学校教育法による高等学校を卒業した方(平成29年3月卒業見込の方を含む)
または、これと同等以上の学力を有すると認められる方(社会人経験の方を含む)

【出願期間】 2017年 1月10日(火)～1月24日(火)(当日消印有効)

【試験日】 2017年 2月 2日(木)

【試験科目】 数学I、コミュニケーション英語I(ホテルビジネス科のみ、コミュニケーション英語I、小論文)

※地域企業の皆さんと一緒に「ものづくり」の悩み解決を行いたいと考えています。技術的相談等お気軽にお寄せください。

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 沖縄職業能力開発大学校(援助計画課:岡村・赤嶺)

〒904-2141 沖縄県沖縄市池原2994-2 TEL. 098-934-6282 FAX. 098-934-6287

●メルマガ会員募集中 <http://www.jeed.or.jp/merumaga/index.html> ●ホームページ <http://www3.jeed.or.jp/okinawa/college/>



工業技術センターだより Okinawa industrial technology center

<伸びゆく沖縄・支える技術>



車椅子の移動を“らく〜”に(^^)/ - 介助支援型スローパーの開発 -

研究紹介
生産技術研究班

車椅子に着座したまま車両に乗り込む方法として、リフトタイプやスロープタイプの福祉車両が多く活用されています。比較的安価に購入・導入できるスロープタイプに着目すると、

- 車両への乗降の際に腕力が必要
- 狭い車内で車椅子を固定する

など、介助者の負担が大きいことがわかりました。近い将来、確実に到来する超高齢化社会には老々介護の家庭が増え、介助者の負担が益々大きくなると予想されます。

このように介助者が抱える課題を解決するために、タイヤランド沖縄を中心に新垣鋳金、沖縄県工芸振興センター、沖縄県工業技術センターが研究共同体を形成して【介助支援型スローパー】の開発に取り組みました※1。

介助支援型スローパー（以下、スローパー）の概念を図1に、スローパーを取り付けた福祉車両の外観を図2にそれぞれ示します。乗車の際、介助者は車外に出て来るスローパーに車椅子を移動し、プレート上に車椅子を固定します。車椅子を固定したスローパーはモータを駆動させることによって車内へと移動し車内でロックされます。このとき、介助者のサポートは必要ありません。降車の際は、上記とは逆の手順で操作します。

試作したスローパーの有効性について介護施設の協力を得て試用・評価していただき、さらなる改良を重ねて特許を出願しました。先日行われた第45回沖縄県発明くふう展に応募し、沖縄県発明協会会長賞を受賞しました(図3)。また、発明くふう展における展示では来場者に実際に試乗していただき、多くの方々に興味を持っていただきました(図4)。なお、同製品について詳しく知りたい方は、右記までご連絡ください。

※1 平成26~28年度 ライフスタイルイノベーション 創出推進事業(実用化・実証ステージ)にて採択され実施した。

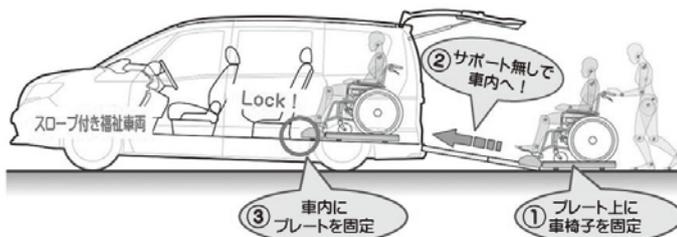


図1 介助支援型スローパーの概念



図2 介助支援型スローパーを取り付けた福祉車両外観

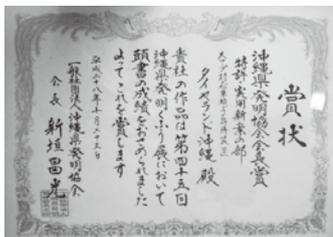


図3 沖縄県発明協会会長賞受賞



図4 展示・説明の様子

お問い合わせ先

タイヤランド沖縄(担当:高里、島袋)
住所:沖縄県宜野湾市大山1丁目1番15号
電話:098-898-5732

工業技術センターは、県内製造業への技術的支援を通して産業の活性化に貢献することを使命として事業に取り組んでいます。「製品の開発に関して技術的なアドバイスがほしい」、「製品の品質を上げたい」、「研究開発の支援がほしい」などの技術課題解決や新製品・新技術開発の支援が必要な場合にはお気軽にご相談下さい。

沖縄県工業技術センター (技術支援班/企画管理班)

〒904-2234 沖縄県うるま市字州崎12番2 TEL:098-929-0111・FAX:098-929-0115
E-mail:kousi@pref.okinawa.lg.jp (メルマガを始めています。)

● ホームページ: <http://www.pref.okinawa.jp/site/shoko/kogyo/index.html>

OKINAWA INDUSTRIAL FEDERATION NEWS TOPICS

11月25日に長袖かりゆしウエア着用・普及に関する協力依頼のため、沖縄県衣類縫製品工業組合の大城英幸代表理事・伊良波勲事務局長、沖縄県商工労働部ものづくり振興課から嘉数裕幸副参事が本会を訪問されました。以下に要請内容を紹介します。

【沖縄県衣類縫製品工業組合からの要請内容】

日頃よりかりゆしウエアへのご愛顧を賜り心より感謝申し上げます。
 おかげさまで、夏場における半袖かりゆしウエアは、全国的にも認知されるようになりました。これも貴職のご支援及びご協力の賜として衷心より感謝しております。
 本組合としては、一年を通してのかりゆしウエアの着用を推進し、県内縫製業の更なる活性化に繋げて行きたいと存じます。
 貴職につきましては服務規程があると存じますが、季節の変わり目の秋口や冬場におきましては長袖かりゆしウエアの着用を認める、といった柔軟な運用をご検討して頂きますようお願いいたします。
 つきましては、冬場の長袖かりゆしウエアの着用普及について貴職より特段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。



【沖縄県商工労働部からの要請内容】

沖縄県では、県内衣類縫製業の振興及び県産品の奨励、また本県を訪れる観光客を温かく迎え入れ、沖縄のイメージアップを図ることを目的に、かりゆしウエアの着用を推進しております。
 昨年度からは、沖縄県縫製業安定基盤構築事業を実施し、県内事業者が取り組む長袖かりゆしウエアの新商品開発に対して支援を行うとともに、沖縄県衣類縫製品工業組合と連携して、積極的なPR活動を展開しているところであります。
 つきましては、貴殿におかれましても、長袖かりゆしウエアの普及に御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。



公益社団法人沖縄県工業連合会 会員募集のご案内

公益社団法人沖縄県工業連合会は、昭和28年5月に「沖縄県における工業の育成及び振興を図り、もって県経済の発展に寄与する」ことを目的に創立されました。現在では、製造業を中心に約350社の会員を有し、毎年7月の「県産品奨励月間」や「沖縄の産業まつり」などとおして、県内製造業並びに関連産業の振興発展に寄与するため鋭意努力しております。本会の主旨に賛同していただける方なら規模の大小は問いませんので、ご入会をお待ちしております。お気軽に事務局までお問合せください。

会員への主なサービスならびに特典

- 機関誌「工連ニュース」や電子メール等による各種情報サービスの提供
- 経営者や従業員を対象とした講習会、技術・経営セミナーなどの案内
- 公設試験研究機関との連携による技術力向上に関する事業などへの参加
- 県産品奨励月間事業(7月)における国・県・市町村、食品・建材大口需要者などに対する要請活動への参加
- 「県産品マーク」の取得
- 本会のインターネットホームページによる会員企業の紹介
- 「沖縄の産業まつり」の出展料の優遇
- 従業員表彰制度の活用(優良従業員・創意工夫功労者・優秀技能者)
- (一社)沖縄県発明協会との連携による産業財産権に関する情報提供など



会員の皆様へ「工連ニュース」で自社の商品をアピールしてみませんか？

会員の皆様方には平素より本会機関誌「工連ニュース」の事業活動についてご理解・ご協力を賜り衷心より感謝申し上げます。

「工連ニュース」では会員サービスの一環として会員の新品などを紹介するコーナーを設けています。事業のPR、新商品の紹介などに積極的にご利用下さい。

●お問合せ先

公益社団法人沖縄県工業連合会 TEL.098-859-6191 担当：川満



沖縄県産品
マーク表示制度
について

自社製品のピーアールに 「県産品マーク」を 使用してみませんか？

公益社団法人 沖縄県工業連合会



県産品マークとは…

県内で製造・加工された県産品に、「沖縄県産品マーク」を表示することによって、消費者等が県産品と県外産との識別を容易にさせていただくと同時に、消費者と安心・安全な県産品をつなぐ有効な手段として、公益社団法人沖縄県工業連合会が昭和61年に「沖縄県産品マーク表示制度」を定めたものです。現在では、食品、生活用品、建設資材、工芸品など多くの県産品に利用されています。

1 沖縄県産品マーク表示申請資格

- (1) 県内で事業を営む業者であって本会の会員であること。
- (2) 県内で製造された製品で本会が認めたもの。
- (3) 製造、又は販売について法令の定めるところにより許可を必要とする場合は当該許可等を受けたものであること。

2 沖縄県産品マーク表示対象品

県内で生産・製造、又は主たる加工がなされた加工品、家庭雑貨、工芸品、建材等、沖縄県産品マークの表示を必要とする全ての県産品。

3 申請方法

所定の表示申請書を作成し本会へ申請する。

4 申請料金

1製品につき30,000円



FOR YOUR HAPPY TIME

Orion

麦芽100%の豊かな味わい、アロマホップの華やかな香りと、澄みきったおいしさ。

想像以上。麦芽100%のうまさひは

Ichiban Sakura
2017
VERSION



季節限定
醸造ビール

100% MALT & AROMA HOP

Arime
アリメ

素材の良さと厳選酵母のハーモニーが、豊かな味わいを生み出します。心躍る華やかな彩り。今年もオリオンいちばん桜の春をお楽しみください。



飲酒は20歳になってから。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を与えるおそれがあります。お酒は、おいしく、適量に。のんだあとはリサイクル



オリオンビール株式会社

<http://www.orionbeer.co.jp/>